

TOPICS

当法人理事長および病院長が10月1日付で下記のとおり就任しました

理事長 稲垣 暢也 (前 京都大学大学院医学研究科教授)

病院長 秦 大資 (前 当院副院長・小児科主任部長)

本館の改装工事が順次進んでいます

医学研究所北野病院では、2025年の法人設立100周年に向けて本館リノベーション事業を実施しています。外来フロアの混雑緩和に向けた動線整理や、より良い診療環境構築のために、工事中はご来院の皆さまにご迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



移転した地域医療サービスセンターや入院受付 全室個室化された集中治療室 (ICU)

寄附者一覧 (2022年7月~10月)

[法人] ジョリーメイ株式会社様 共英製鋼株式会社様 株式会社安藤忠雄建築研究所様 匿名: 6社様
[個人] 溝口千恵様 吉村育子様 松本勝治様 堀竹康正様 熊田壽恵様 松本勝治様
中村美智子様 徳弘滋様 中條憲治様 星島弥生様 匿名: 23名様

QUESTIONNAIRE

読者アンケート募集!

「きたの広報」では、読者の方からのご意見・ご感想を募集しています。ご意見・ご感想は、QRコード*を読み取りいただき、アンケートフォームより送信してください。皆さまの“知りたい!”にお応えできるよう精進いたします。

*QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

ご意見・ご感想をお待ちしています



公式Twitterを
ご覧ください



お気軽にフォロー
してください。



https://twitter.com/kitano_koho

公式Facebookを
ご覧ください



スマートフォンから
カンタンにアクセス
いただけます。



LINE友達のご登録を
お願いします



北野病院からの
お知らせなどを配信
させていただきます。



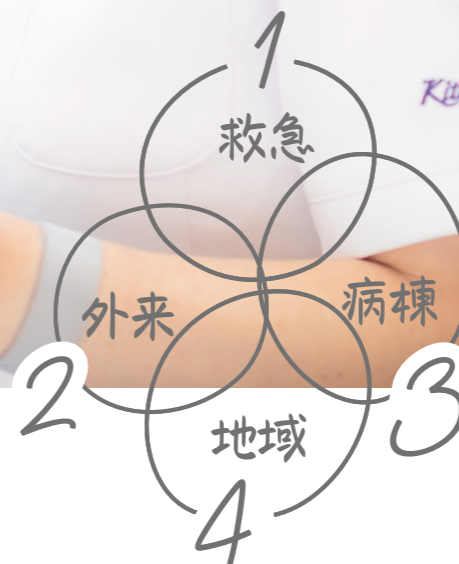
KITANO
きたの広報





NURSE'S PROFESSION

“へだてなく、よりの確に、こまやかに”
患者さん中心の看護を



医学研究所北野病院看護部が めざす看護とは

看護部では、より質の高い看護を「へだてなく」一人ひとりの患者さんの個別性と多様性を尊重して、病状・状況に応じて「よりの確に」、温かみのある看護を「こまやかに」お届けできるように日々努めています。この理念は、救急、外来、病棟、地域といったすべての領域を通じて全看護職員が共有しています。また、医学研究所附設の病院として、看護職員の教育と人材育成に力を入れています。さらに看護の質を高めていくために、研究的視点をもって課題に取り組み、その成果を共有することを毎年、行っています。

看護部は、約700名の看護職員と約100名の看護補助者が所属する院内最大の組織です。患者さんのもっとも近くにおいて、長い時間接する存在ですので、病院の「顔」となる重要な職種です。患者さんに、北野病院に通院して、または入院して良かったと思っていただける看護実践をめざしていきます。

看護部長
寺井 美峰子

Nurse Vision

より良い看護を提供するために組織として向上し続けます。

1. やりがいを持って働き続けられる組織に
2. 一人ひとりの成長とキャリア開発による質の高い看護の提供を
3. 現場の声へだてなく届き改善につながる組織へ



救急看護

二次救急医療機関として 質の高い救急看護の提供をめざす

北野病院救急部では二次救急医療機関としてさまざまな救急患者さんの対応を行っています。2021年度の救急患者総数は約24,000名、約8,000台の救急車の受入を行いました。対象は小児からご高齢の方まで幅広い年代の患者さんで、対象疾患も多岐にわたり、時には命に関わるような治療や処置が必要となることもあります。外来診療科や多職種と協働して迅速な対応を心がけるとともに、「安心安全で質の高い救急看護を実践できる」を目標に、救急部を訪れる患者さんやご家族の不安に寄り添うきめこまやかで温かい看護を提供できるよう、日々研鑽に努めています。

苦痛を和らげ、患者さんやご家族の 心に届く看護を提供したい

救急外来には突然発症するさまざまな苦痛を訴える患者さんが数多く来院されます。会話のままならない意識障害や呼吸困難、痛みなどがあり、身体的・精神的ストレスのある患者さんに対し、瞬時に状態を捉えて判断し対応することが求められます。チームで関わることで患者さんやご家族の苦痛やストレスが和らぎ、気持ちの支えになれたと実感できたとき、救急看護師としてのやりがいを感じています。



外来看護

各所との連携、協力体制を整えて対応

約50名の職員が外来ブースのフロア(4ブロック)に分かれて勤務しており、それぞれ医師の診察の介助や検査説明、処置室では点滴や注射、輸血などを行っています。禁煙・糖尿病ケア・ストーマケア・フットケアなど専門知識を持った看護師が担当する複数の看護外来もあります。地域の医療機関とも連携し、患者さんの紹介や当院への受診していただくための調整なども行っています。検査部、薬剤部、放射線部など他の部門と連絡を取りながら、患者さんがスムーズに診療を受けていただけるように協力体制を整えています。

外来看護師としてうれしかったこと

外来では医師の他に専門知識を持った看護師が行う看護外来があります。ご自身の力で少しでも日常生活が安楽に過ごせるよう、セルフケアに向けての関わりにも力を入れています。私たち看護師がお伝えした内容が患者さんのお役に立ち、「回復に向かった」「活動範囲が広がった」などの言葉をいただくと大変やりがいを感じます。これからも、患者さんへのより良い看護、支援の提供をめざします。



病棟看護

13西病棟の役割

13階西病棟は、脳卒中ケアユニット(SCU)を併設する脳神経外科の病棟です。神経センターの医師とともに365日24時間体制で緊急入院される患者さんの治療にあたっています。また一般病棟では、脳神経外科疾患の患者さんの手術などの治療に対応しています。

病棟に入院される患者さんは、私たちが生活の中で必要とするさまざまな能力に障害を来していることがあります。例えば、運動機能や摂食(食べる)機能、コミュニケーションに必要な認識や発語などの機能です。私たち看護師は、その人らしく生きる能力を維持・回復するにあたり、的確でこまやかなケアの提供をめざしています。

心に残っている看護

患者さんの持つ力が最大限に発揮され、リハビリテーションを通じて向上できた時は、とてもうれしく思います。また、その時の患者さんやご家族の笑顔に勇気を頂くことも多いです。入院期間は、患者さんの人生のひとときでしかありませんが、リハビリ病院への転院やご自宅に退院される姿を想像して、回復支援できることが看護のやりがいにつながっています。



地域医療

住み慣れた地域へ 戻るための支援をサポート

地域医療サービスセンターは、医療サービスシステムの効率化や運用など、地域住民や医療機関の多種多様なニーズに応じて病院内外の連携をスムーズに行うことを目的としています。その中でも医療相談係では主に在宅療養支援や社会的問題を抱える相談支援、入退院サポートステーションでは入院・手術のマネジメントや、入院前の面談情報を院内外スタッフへ情報共有し、かかりつけ医との連携などを通して、患者さんが安心・安全に入院前から住み慣れた地域へ戻るための支援をサポートしております。

聞く環境を整えて面談

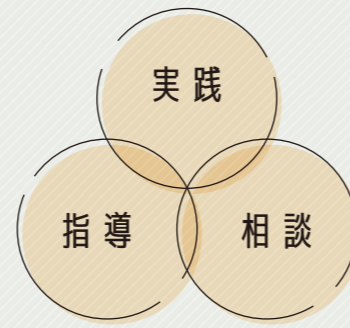
入院患者さんとは、入院前に個室でゆっくりお話を聞く環境を整えて面談を行っています。退院後を見据えて多職種と連携し、入院生活や治療の流れが具体的にイメージできるような説明を心掛けています。患者さんごとに異なる不安や疑問を一つひとつ解消していき、安心して治療に臨んでいただくことにやりがいを感じています。

専門分野の知識・技術を活用して寄り添います

看護教育

科学的根拠に基づいた

安全で質の高い看護を提供できるように、
専門的知識・技術・態度に優れた看護職を育成する



キャリア開発ラダーに基づいた教育

看護部では、「へだてなく、よりの確に、こまやかに」という理念のもと、患者さんに安全な看護を提供できるよう努めています。教育目標のひとつに、「科学的根拠に基づいた安全で質の高い看護を提供できるように、専門的知識・技術・態度に優れた看護職を育成する」を掲げ、新人からエキスパートまで、それぞれのステップに応じてキャリアアップできるような教育プログラムを整備しています。

当院では、「北野キャリア開発ラダー」という院内教育の枠組みを導入し、スタッフの習得レベル（Ⅰ～Ⅴ）に応じて教育研修を実施しています。その中でも、新人看護職員は、看護職として必要な看護実践能力を習得できるように、1年をかけてラダー

レベルⅠの研修を受講し、基本的な看護手順に従い安全な看護を実践できるよう取り組んでいます。



この2名の教育担当看護師を中心に教育プログラムを整備しています

みんなで育て合い、学び合う看護部



採血練習キットを用いた採血の教育

看護部では、「みんなで育てる」をモットーに、チームで教育・支援を行う教育体制をとっています。各部署では、2年目以上のすべての看護職員が新人看護職員をサポートしています。日々の業務における直接的な指導だけでなく、学習方法、悩みごと、生活のことなど広範囲にわたり支援を行っています。すべての看護職員が、ともに育て合い、学び合うことができる環境の中、看護職として成長し続けています。

Nursing Education

苦痛をやわらげる医療

緩和ケア

生命を脅かす病気のためにいろいろな問題に直面している
患者さんやご家族を対象とし、
身体的なつらさ・心理的なつらさ・社会的なつらさを和らげるためのケア

主治医とともに
患者さんご家族を
支えています。



Palliative care

緩和ケア医と認定看護師が訪室

緩和ケアとは生命を脅かす病気のためにいろいろな問題に直面している患者さんやご家族を対象とし、痛み・息苦しさ・だるさなどの身体的なつらさ、気持ちの落ち込みや不安などの心理的なつらさ、仕事や家族関係などの社会的なつらさを和らげるためのケアです。

当院では医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・臨床心理士・ソーシャルワーカーなどさまざまな

職種がチームを組んで活動しています。入院中は「緩和ケアチーム」がベッドサイドに訪問し、外来移行後は必要に応じて診療・面談を行い、専門的な知識と技術をもつ多職種で相談しながら入院から外来診療と継続した緩和ケアを提供し、主治医とともに患者さんご家族を支えています。コミュニケーションを通して患者さんの考えや思いを理解することは、その人らしく過ごすことを支援するための第一歩だと考えています。対話を通して患者さんやご家族の思いや希望を確認し、少しでもつらさを和らげ、その人の大切にしたいものを支えるために必要なケアや支援を一緒に考えることを心がけて活動しています。



多職種による緩和ケアチームでカンファレンス



特定の看護分野に熟練した認定看護師がサポート